2. 事故等の発生状況

平成 22 年から同 26 年までの 5 年間に運輸安全委員会が調査対象とした遊漁船事故等は 224 件で、これらの事故等に関与した船舶 342 隻の内訳は、遊漁船 233 隻と一般の船舶 109 隻（プレジャーボート 61 隻、漁船 29 隻、貨物船 9 隻など）でした。その発生件数の推移について、遊漁船が関与しないその他の船舶事故等（以下「一般の事故等」という。）と比べてみます。

遊漁船事故等の発生は、ほぼ横ばい

一般の事故等は緩やかに減少していますが、遊漁船事故等は、ほぼ横ばいとなっています。遊漁船登録隻数 (※4) は平成 24 年度以降、減少しており、事故等発生隻数と登録隻数から発生率をみると、平成 22 年から同 26 年までの 5 年間の平均は 0.28%で、1,000 隻あたり 2.8 隻が事故等に遭遇していることになります。（図 1、2 参照）

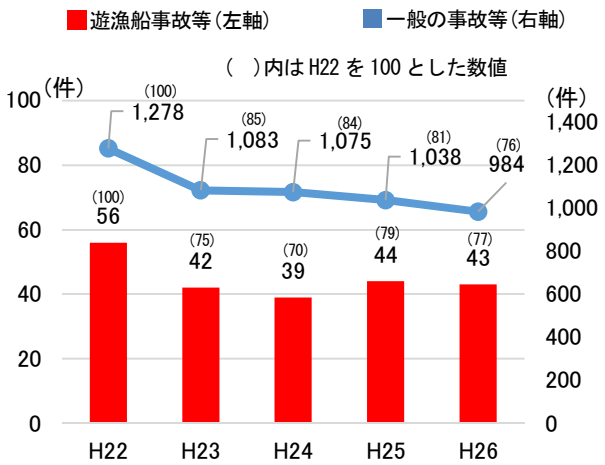


図 1　事故等件数の推移

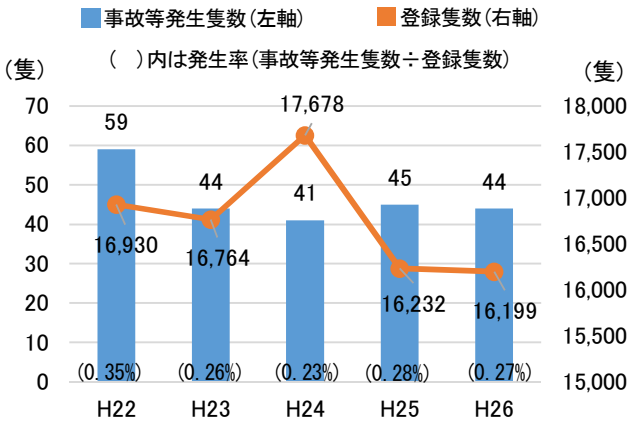


図 2　事故等発生隻数と登録隻数の推移

出典：水産庁

※4　登録隻数は年度末時点。平成 22、23 年度は東日本大震災の影響により、集計できなかった地域がある

遊漁船事故等は一般の事故等に比べて死傷者等の発生率が約１．８倍

遊漁船事故等の 224 件、342 隻（遊漁船 233 隻、一般の船舶 109 隻）のうち、死傷者が発生した事故は 107 件、110 隻（遊漁船 70 隻、一般の船舶 40 隻）となっており、死傷者数は 239 人です。

事故等における死傷者等（死亡者・行方不明者・負傷者）の発生率についてみると、遊漁船事故等のうち 47.8%（107 件）で死傷者等が発生しており、この数値は一般の事故等の約 1.8 倍となっています。（図 3 参照）

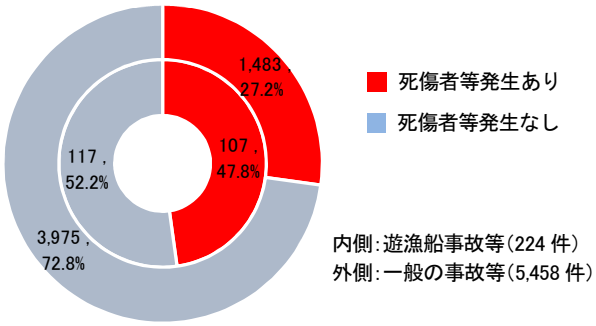
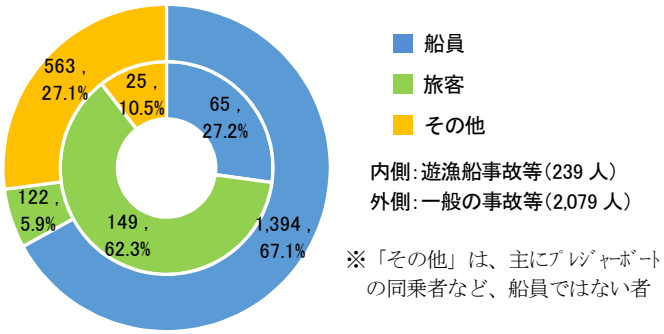


図 3　遊漁船事故等と一般の事故等の件数

また、遊漁船事故等 224 件で死傷者等についてみると、船員（遊漁船、ﾌﾟﾚｼﾞｬｰﾎﾞｰﾄ、漁船の船長や乗組員）よりも、旅客（遊漁船では釣り客）の被害が多くなっています。（図 4 参照）



※「その他」は、主にﾌﾟﾚｼﾞｬｰﾎﾞｰﾄの同乗者など、船員ではない者

図 4　死傷者等の内訳

写真提供：佐々木隆史氏

なお、遊漁船のみの死傷者数は 179 人（船長と乗組員が 30 人、釣り客が 149 人）で、船長と乗組員よりも釣り客の被害が約 5.0 倍となっています。

事故等種類の状況　遊漁船事故等は船舶同士の衝突が多い

一般の事故等と比べると、遊漁船事故等は遊漁船と瀬渡船で特徴が異なり、遊漁船関係（194件）では船舶同士の衝突の割合が、また、瀬渡船関係（30件）では死傷等の割合が多くなっています（瀬渡船関係の死傷等は9件中7件が瀬渡し中。船舶同士の衝突については、5ページを参照）。「死傷等」とは、死傷者等が発生した船舶事故のうち、衝突、乗揚、転覆、沈没、火災、爆発、浸水などによらないもので、船体からの落水による死傷や波などの船体動揺による転倒や身体を船体に叩きつけることによる負傷などが含まれます。（図5、6参照）

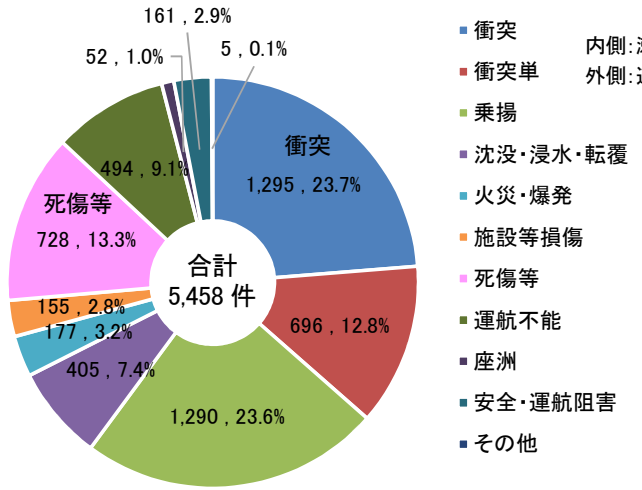


図5　事故等種類の状況（一般の事故等）

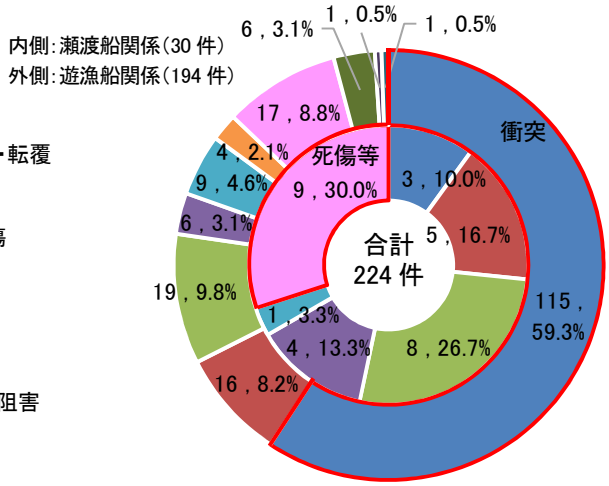


図6　事故等種類の状況（遊漁船事故等）

発生月の状況　夏から秋にかけて多い

7月から10月の4か月間が46.4%（104件）で約半数を占め、7月の13.4%（30件）が最も多くなっています。船舶同士の衝突では7月が13.5%（16件）となっています。（図7参照）

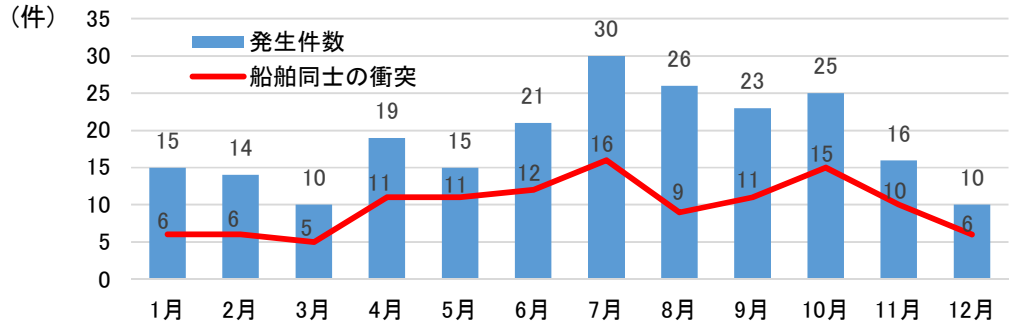


図7　発生月の状況

発生時間帯・曜日の状況　早朝の日の出の前後、土・日・祝が多い

5時台が9.8%（22件）で最も多く、日の出の前後でそれぞれ11件発生しており、次いで6時台及び9時台が多くなっています。船舶同士の衝突では昼間の発生が84.7%（100件）で、9時台が12.7%（15件）となっています。（図8参照）

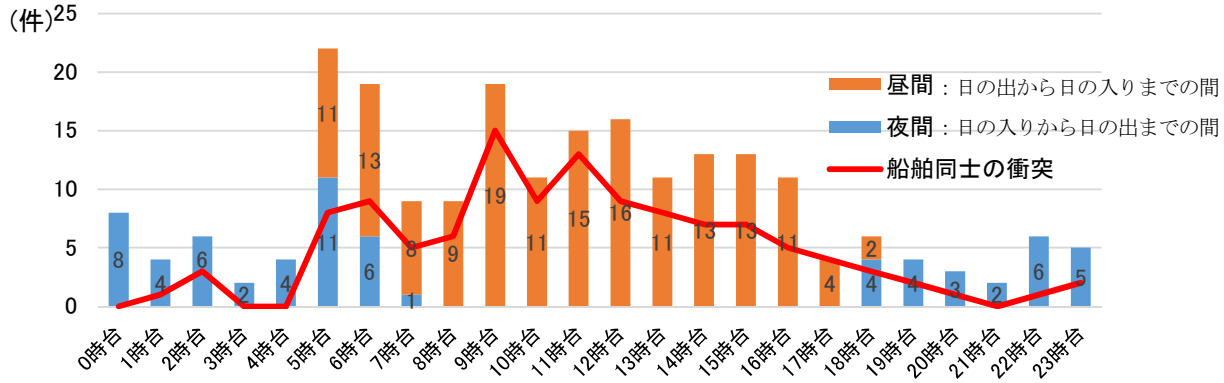


図8　発生時間帯の状況

また、日曜日が27.2%（61件）と最も多く、次いで土曜日が21.4%（48件）となっており、祝日の16件を含めると、土・日・祝日で55.8%（125件）を占めています。

遊漁船の状況

（１）船長の年齢　**55から64歳が多い**

遊漁船 233 隻のうち、船長の年齢が判明した 163 人では 55 から 64 歳が 27.0%（44 人）で最も多くなっています。65 歳以上の高齢者の割合をみると、遊漁船の船長は 31.3%、一般漁業者全体は 34.6%となっています。（図 9、10 参照）

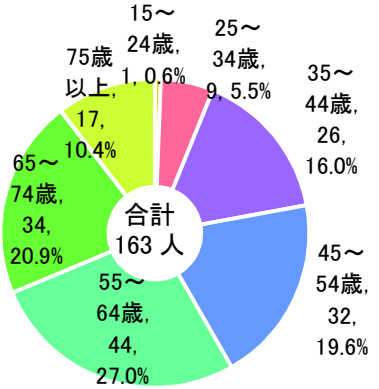


図 9　船長の年齢

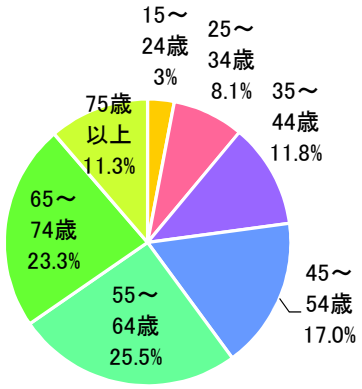


図 10　一般漁業者全体の年齢分布

（出典：2013 年漁業センサス結果の概要の年齢階層別漁業就業者数（平成 20 年及び同 25 年の数値を集計、農林水産省公表資料））

（２）案内形態　**船釣りが多い**

遊漁船 233 隻のうち、案内形態が判明した 182 隻では船釣りが 151 隻で最も多く、次いで磯渡しが 25 隻となっています。（図 11 参照）

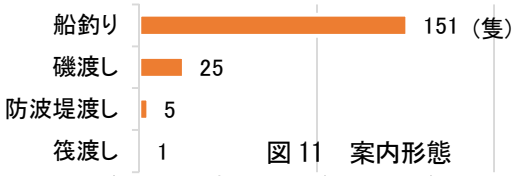


図 11　案内形態

（３）動静　**航行中が多い**

遊漁船 233 隻のうち、動静が判明した 227 隻では航行中が 175 隻で最も多く、次いで漂泊中が 35 隻となっています。（図 12 参照）

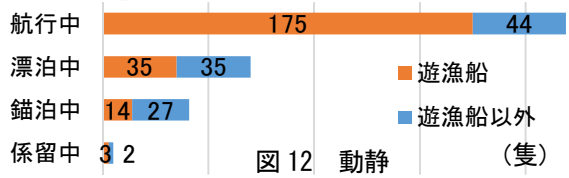


図 12　動静

（４）釣り客数と乗組員数、総トン数　**5トン未満が約6割**

遊漁船 233 隻のうち、釣り客が判明した 225 隻では釣り客の総数は 1,207 人でした。1 隻の釣り客数では 3 人が 44 隻で最も多く、次いで 4 人が 29 隻となっており、釣り客 15 人以上の船は 8 隻で、磯渡しが多くなっています。（表 1 参照）

乗組員数が判明した 227 隻では、1 人が 201 隻、2 人が 15 隻、3 人が 7 隻で、0 人が 4 隻（カセ船 ※5 3 隻、係留 1 隻）となっています。

総トン数が判明した 231 隻では、5 トン未満が 142 隻、5 から 10 トン未満が 51 隻、10 から 20 トン未満が 38 隻となっています。

※5　動力はなく、えい航されて釣り場まで移動する釣り船

表 1　釣り客 15 人以上の遊漁船と乗組員数

釣り客数	乗組員数	長さ	総トン数	案内形態
35	1	13.66m(Lr)	12	磯渡し
26	3	16.00m	14	船釣り
26	1	13.64m(Lr)	10	船釣り
19	2	11.98m	13	船釣り
19	1	14.55m	4.9	不詳
18	2	13.99m(Lr)	11	磯渡し
16	1	11.49m(Lr)	7.51	磯渡し
16	1	11.58m(Lr)	5.5	磯渡し

※現場調査時にタラップから乗り込む状況を再現
荷物の状況はイメージ
事例 7、12 ページを参照

（５）救命胴衣の着用と落水　**救命胴衣の非着用も**

遊漁船 233 隻のうち、救命胴衣の着用状況が判明した 62 隻では釣り客が全員、救命胴衣を着用していましたが、このうちの 17 隻では船長、乗組員が非着用でした。詳細は判明しなかったものの、釣り客や船長、乗組員が救命胴衣を着用していない状況も見受けられました。

なお、事故等により、遊漁船 233 隻のうち 27 隻で 69 人の落水者が発生しています。

メモ

～居眠り運航が発生！～

・遊漁船 233 隻のうち、6 隻(帰港中 4 隻)で判明し、釣り客は合計で 24 人が乗船
・このうちの 1 隻では船長が重傷(外傷性くも膜下出血、腎破裂等)、釣り客 3 人が軽傷に
・無事に帰港するまでご安全に

（６）死亡した釣り客　　溺水による死亡が多い

遊漁船 233 隻のうち、釣り客が死傷したのは 64 隻で、死傷者数は 149 人となっています。

このうち、釣り客が死亡したのは 10 隻で、死亡者数は 10 人（溺水 6 人、脳幹部挫傷 1 人、外傷性出血 1 人、行方不明後除籍 1 人、不明 1 人）となっており、9 人が落水し、5 人は救命胴衣非着用でした。（表 2 参照）

表 2　死亡した釣り客の状況

	遊漁船		死亡した釣り客				
事故種類	動静	乗組員数／釣り客数（死亡者以外）	年齢・性別	行動等	救命胴衣	落水	死因等
死傷等	航行中	1／7	不詳	・飲酒していた ・隣にいた釣り客は船尾方へ歩いていくのを目撃しており、トイレに行ったものと思っていた ・落水時、目撃されていない	非着用	○	溺水
	航行中	1／1	59歳男性	・操舵室の右舷側後方でクーラーボックスに座り、釣りの準備をしていた ・落水時、目撃されていない	非着用	○	溺水
	航行中	事例2を参照 1／2	62歳男性	操舵室後方の右舷ブルワーク（船のへり）付近でクーラーボックスに座っていた	船長が出港前、着用を確認していたが落水時は不明	○	溺水
	漂泊中	1／5	81歳男性	・小用を足す旨を隣にいた釣り客に声をかけて右舷船尾に向かった ・右舷船尾から落水した	非着用	○	溺水
	漂泊中	1／2	68歳男性	船長の右足首に絡んだ錨索を引っ張っていて、船長の落水後に落水した	非着用	○	溺水
	瀬渡し中	1／0	78歳男性	・岩場から乗船しようとしていた ・船首先端部が釣り客の胸の前に掲げて持っていたクーラーボックスに接触して落水した	非着用	○	不明
	瀬渡し中	事例7を参照 1／0	40歳男性	・岩場から乗船しようとしていた ・左手に釣り竿と餌箱を、右手にクーラーボックスを持っていた ・左腕がハンドレールに当たり体勢が崩れ落水した	着用	○	溺水
衝突	航行中	1／2	78歳男性	衝突後、傾いて浸水し転覆して落水した	不詳	○	行方不明後除籍
衝突	漂泊中	1／5	40歳男性	左舷船尾部に腰を掛けていた	不詳	×	脳幹部挫傷
乗揚	航行中	1／4	67歳男性	・乗揚後、ブルワークから岩場に飛び移ろうとしていた ・船体が傾斜して落水した	着用	○	外傷性出血

（７）船長の釣り客への対応等　　釣り客とのやりとり等が事故に至る要因に

遊漁船 233 隻のうち、船長と釣り客とのやりとり等が判明した主な状況は以下のとおりです。それぞれが事故に至る要因の一つとなっています。

【航行中】

○　釣り客と雑談（質問に応対）

○　釣り客が通路などにいたので、ふだん夜間に行っていた船首端での操船をしなかった

○　釣り客が操舵室内にいたのでケガをしないよう照明を点灯したら、船首方が見えづらくなった

○　一人が釣果なしで帰港になり気にかかっていた

【漂泊中】

○　釣りの手伝い（電動リールの調整など）

○　釣り糸が下へまっすぐなるよう船位調整

○　釣り客の写真撮影

○　釣り客の荷物探し

（８）船舶同士の衝突事故　　プレジャーボートとの衝突が約半数　思い込みの発生も

遊漁船事故等 224 件のうち、船舶同士の衝突事故 118 件の主な状況は以下のとおりです。

○　相手船はプレジャーボートが 61 隻、漁船が 29 隻、貨物船 9 隻、タンカー4 隻など。遊漁船同士は 9 件

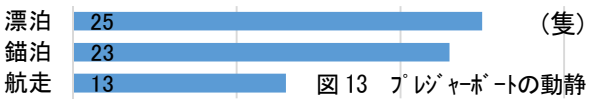


図 13　プレジャーボートの動静

○　漂泊中・錨泊中のプレジャーボート 48 隻のうち、判明した 21 隻は「相手船が避けてくれると思った」

○　漂泊中・錨泊中のプレジャーボート 48 隻と衝突した航行中の遊漁船は 47 隻が適切な見張りを行っておらず、

・　目視やレーダーで周囲を確認したが、航行に支障となる他船はいないと思った

・　他船や漁具、魚群探知機などに注意を向けていた

・　ふだん船を見かけない時間帯、海域だった

などの状況　　**双方に「思い込み」が発生している**